



「人権と協働を考える市民のつどいTV」(2月)の様子

目次

- 特集「部落差別」(同和問題) 2~4
- 人権と協働を考える市民のつどいTV 4
- 中学生の人権作文 5~8
- 小中学校人権教育講演会 9
- 加東市人権・同和教育研究協議会の活動 10
- 広域隣保活動事業 11
- 加東市企業人権教育協議会の活動 11
- 男女共同参画コーナー 12
- 第14期加東市民人権講座修了者 13
- 園児らの共同作品 14~15
- 新型コロナウイルス感染症と人権 16

寄り添い、傾聴する

救護施設桃李園 施設長

武田 てる子

生活保護についてご存じでしょうか？救護施設とは生活保護受給者で、身体や精神の障害から日常生活を送ることが困難な人達が入所され、集団生活を送りながら自立や更生を目指される大人の学び舎です。桃李園は加東市にある救護施設で、現在七十名の方が入所されています。

人は一人では生きていけません。育ちや環境が同じならまだしも、七十通りの生き方があり、考えも異なる人と折り合いをつけながら生きていかなければなりません。

その中で私が大切にしていることは、訴えができる方よりも、訴えや意思を表現できない声を出せない方々に対して特に目を向けることです。

「あなたのことをいつも見ていますよ」というサインが大切なのです。声かけをし、寄り添い、傾聴すること。それが入所者さんの信頼関係を築くのです。

救護施設は「傾聴に始まり、傾聴に終わる」と言われています。人生には失敗がつきものです。失敗を繰り返しながら人は成長するものだとは思いますが。失敗を失敗のままで終わらせないように、思い通りにならない人生に寄り添い、入所者も職員も共にによりよく生きるために私流の最善を尽くそうと日々考えています。



特集

部落差別 (同和問題)

「同和問題を考える」～身近な人権問題として～

関西外国語大学教授 人権教育思想研究所長
明石 一朗 さん

1. はじめに

3年前、兄の結婚が家族の話題になった時、父母が相手の女性が同和地区出身かどうかを問うた。その問いは私にもふりかかった。その時は、「そんなことは実際になつてみないとわからない」と、適当な返事で濁したが、大学の授業で同和問題の起源や歴史、現在の実態や差別解消に向けた取り組みなどを学んで、今まで自分の考えが浅くて弱いものだったと反省した。その後、兄はその恋人と無事結婚したが、もし、彼女が同和地区出身であつたなら、どうなつていたかと思うと怖くなる。今の私なら両親に「同和地区かどうかでその人を判断するのはおかしいことや」とはっきり言える。私は同和問題の正しい知識を得ることがどんなに大切なことかということに気付いた。このことを胸に留めながら自分の人権意識を高めていきたい。

上記の感想・意見は私の「人権問題論」を受講した学生のものである。今、人々の暮らしの中に「同和問題」はなくなつたのかといえ、残念ながら「そうではない」と言わざるを得ない。

2. 人権・同和問題に対するイメージは

小学校から始まる英語教育と同様に、同和教育をはじめとした人権教育は約10年間にわたって学校で教えられるが、「話せない英語」と同じく「使えない人権・同和問題」になつてはいないだろうか。「使えない」とは、人権・同和問題を「身近な生活の中で具体的に考え行動することができない」という意味である。

3. なぜ、「3た」や「3K」の人権・同和問題なのか

大学で人権問題論を受講する学生たちに「人権についてどのようなイメージを持っているのか」と尋ねると、一定数の学生が人権問題に対して「3た」や「3K」と

いう印象を抱いていることがわかった。「3た」とは「たてまえ、縦じわ、他人事」で、「3K」とは「暗い、堅苦しい、怖い」といったネガティブな考えのことである。

医師と教師の共通点は3つある。患者の命を守り、患者や家族との信頼関係を築き、必ず病気は良くなるという確信を持つのが医師なら、教師も子どもの命を守り、子どもや保護者との信頼関係を築き、どの子どもも成長するという肯定的な人間観を持って教育するのが教師である。病気になつた時、医師から悪いことを指摘されるだけで治癒する見通しや薬の処方さえなかつたらどうだろうか。不安で心配でたまらなくなると思う。「この病気は本当に治るのだろうか」と。人権・同和問題の取り組みにおいても同じことが言えるのではないだろうか。

差別の現実から深く学ぶことは人権・同和教育の前提であり出発点である。しかし、「こんな差別の実態があります」「この厳しい差

別の現実をしつかり知りなさい」という教育に終始するだけでは「そんな苦しくてしんどい人権・同和問題を教えないでほしい」「そして寝た子を起さなければ差別はなくなるのでは・・・」などといった否定的な考えや気持ちしか生まれないのではないだろうか。多くの学生が人権・同和問題に対して「3た」や「3K」のイメージを抱いてしまうのは、差別からの解放の展望や見通しを示すことなく、漫然と「厳しい差別の現実」だけを強調する教育をしてきたからではないだろうか。

4. 好感・共感・親近感を育む 人権・同和教育を！

雨が降っている時、傘が開かないと意味が無いように、どんなに大切な事柄でも人々の心が閉ざされていると話が染み込んでいかない。生前、作家の井上ひさしさんは、「難しいことは易しく、易しいことは深く、深いことは愉快に、愉快なことは誠実に」書くように努力したと語っている。

人権・同和教育もそうだと思う。

誰もが人権・同和問題を自分のことと捉えて行動するには「好感・共感・親近感」を抱くことが必要である。つまり、人権・同和問題は、まだまだ厳しい差別の現実があるが、いつの日か必ずみんなの努力と英知によって無くすることができるという「解放への展望」と「解決の見通し」を指し示す教育をすることが重要である。

では、差別解消に向けた展望のある人権・同和教育を進めていくにはどうすればいいのか。

5. 同和問題の解決への3つ の展望

1つめは、素敵な出会いや豊かなふれあいをたくさんすることである。USJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)に子どもが「行きたい!」と言った時、父母が「あんた、あんな恐ろしいところへよう行きたいんやなあ。みんな騙されているんやで。一度行ったら二度と帰ってこれへんところやで!」と返答。それを言われた

子どもは「USJは怖いところや・・・」と思い込み信じてしまう。ところが、学校で友だちが「USJはおもしろい!楽しかった!!」と喜んでいる姿から「啓発」された子どもは「USJは楽しいところ」と気づく。素敵な出会いと豊かなふれあいの中から本当のことが見えてくる。人権・同和問題も同じことが言える。

2つめは、人権・同和問題を自分自身に引き寄せて考え行動することである。差別は「ひと事、よそ事、他人事」だと遠い問題である。病気や怪我をして初めて健康の有難さがわかるように、人は我がごとになって初めて真剣になる。癌治療の名医と言われた医師が、自分自身も胃癌に侵されて患者の本当の辛さや悲しみがわかったと告白している。それぞれが人権・同和問題を自身の生活と見つめ重ね合わせることで求められる。

3つめは、正しく学ぶことで成長する。人は正しく学ぶことで成長する。花がきれいと思うだけの子どもは花を摘み取る。しかし、種を

植え双葉から本葉が出て、やがて花を咲かせ実をつけるといった草木の成長を学んだ子どもは花を育てる。ウサギがかわいと思うだけの子どもは撫でるだけだが、ウサギも命ある生き物であることを学んだ子どもは、エサや水を与え糞の始末もするようになる。わかるということは人を賢くする。人権・同和問題も正しいことを学ばなければ誤った考えや風評・噂に騙される。

これまで積み重ねられてきた人権・同和教育の研究実践は、差別の現実には深く学びながら、子どもの未来を切り拓き保障する営みであった。全ての人々が素敵な出会いや豊かなふれあいを重ね、自身の身に引き寄せて考え行動し、正しく学ぶことを通じて、必ず差別は無くすることができるという確信と見通しを持つとき、「好感・共感・親近感」のある人権・同和教育に発展していくものであると思う。



6. 同和問題に関する「Q&A」

Q1 そつとしておけば、同和問題は無くなるのではないですか？

A1 「そつとしておけば、同和問題はなくなる」という考えでは同和問題は解決できない。1871年(明治4年)、いわゆる「解放令」(賤称廃止令・太政官布告)が出されてから約140年、1947年(昭和22年)、基本的人権の保障を謳った日本国憲法が施行されて約70年経過した現在でも、「差別をしてはいけない」とわかっているのに、いまだ差別が現存している。それは、同和問題を正しく学習しなかったり、多くの人が「できることならかわりたくない」「傍観者でいたい」あるいは「そのうちに自然になくなるから…」などと同和問題と真剣に向き合うことなく、避けてきたからである。その結果、偏見や間違った考えが人から人へと伝えられ、差別が繰り返されてきたと言える。

同和問題を正しく認識するとともに、一人ひとりが差別を許さない心をしっかりと育み、豊かな人権意識や感覚を持った生き方をすることが大切である。そして、どのような時も「自分が差別されたらどうか」と、相手の立場に立つて考え行動する姿勢を持続けることが求められる。

Q2 同和問題は、差別される人の問題で自分には関係ないと思うのですが・・・

A2 同和問題は、同和地区に生まれたという理由だけで、根拠のない言い伝えや偏見によって差別されるという社会問題である。それぞれ自分の日常生活を振り返ってみても、自分に責任のない理由で、つらい思いをしたことはないだろう。例えば、家族の構成や親の仕事、国籍や人種、性別や思想信条・宗教、障害の有無などである。これらは差別される人々の問題ではなく、差別する人々がいるから生じる人権問題である。人権問題の解決は、自分が差別する人間にならないだけでなく、日常生活の中で差別を許さない行動をとることが重要である。そのためにも、同和問題をはじめとした様々な人権問題を「自分には関係ない」と避けるのではなく、自分自身の暮らしと重ねて「自分事」として捉えることが大切である。

何事も「他人事」だと関心が薄く積極的な態度が生じない。同和問題の学習を通して正しく理解すれば、差別を許さない態度をとることができる。また、人権問題の学習過程で厳しい差別の中で真剣に生きてきた人々の姿やその願いに触れ、自分自身の考え方や生き方を見つめ直し考えることで、他の

人権問題についても気づくようになる。同和問題を自分の問題として考えることは、自身の人生をより豊かにすることにつながるものである。

Q3 同和教育では、どのような力を育むことができるのでしょうか？

A3 同和教育は、教育を通じて同和問題の解決を図ることを直接のねらいとしているが、これを通じて、差別や偏見を見抜く合理的なものの見方、考え方を学び、差別や偏見を許さない実践力を育むことを目的としている。したがって、同和教育は人権教育の先駆けとして同和問題の解決だけでなく、様々な人権問題の課題に取り組んできた。約70年前、「今日も机にあの子がいらない」という長期欠席や不就学といった同和地区の子どもの生活実態や差別の現実に深く学ぶことから同和教育はスタートした。そして、同和教育の研究実践の広がりや深まりが、障害者理解教育(特別支援教育)、在日外国人教育、男女共同参画、多文化共生教育などの人権教育へと発展してきた。同和教育で育んだ差別を許さない人権感覚と態度は、あらゆる差別を解消していくための「人間力」を育む基礎となっている。

KCVで「人権と協働を考える市民のつどいTV」を放送しました

2月21日(日)から2月24(水)まで、加東ケーブルビジョン(KCV)で、「人権と協働を考える市民のつどいTV」を放送しました。

市民や地域、事業者などと行政がそれぞれの役割を担い、連携・協力して取り組む「協働」と、それらを進めていく中で欠かすことのできない「人権」について考える機会とすべく開催している「人権と協働を考える市民のつどい」ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からテレビ番組としました。

加東市人権・同和研究教育協議会の地区住民学習の取組や子ども園での取組、企業人権教育協議会の活動、まちづくり活動の紹介などを行いました。

内容

「人権と協働を考える市民のつどい」とは

人権学習

地区や学校・園、企業での人権学習の取組を紹介

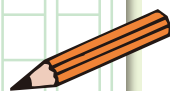
まちづくり活動

まちづくり活動を行う団体と活動内容の紹介

番組を見逃したという方にも4月からDVDの貸出を行う予定です。事前にお問い合わせください。

お問合せ先 加東市市民協働部人権協働課
☎43-0544

中学生の人権作文



「命の選択」

社中学校 二年

大橋 おおはし
理佳 みちか



皆さんは死について考えたことはありますか。私は最近、「自殺」という言葉をよく聞くようになりました。有名な俳優さんの自殺は大きなニュースになることが多く、知っている人が多いと思います。

皆さんは、日本で一年間に自殺をする方は何人くらいいると思いますか。実は、二〇一九年の自殺者は約二十万人もいます。単純計算で一日五十人以上の方が自殺によって亡くなっているのです。病気や事故などで、生きたくても生きられない方がいる中で、なぜ自ら

命を絶ってしまう方がこんなにも多いのか。亡くなってしまった方に理由を聞くことはできませんが、想像よりもずっと人数が多いこの「自殺」という問題について、少し考えたいと思います。

警察庁のウェブサイトによると、数ある自殺の原因の中で最も多かったのは健康問題です。重い病気や、不治の病に冒されてしまい、「一生このままなら」「こんなに苦しまないといけないのなら」、自殺した方がましかもしれないと、そう思ったのかもしれない。

次に多かったのは、家庭問題です。進学や将来について親や親せきから大きすぎる期待を抱かれ、そのプレッシャーに耐えられなくなってしまうたり、逆に親から見放されてしまったりと、誰にも言えない家庭の事情があったのかもしれない。

そして、私たちのような学生が一番問題視すべきなのは、やはりいじめによる子どもの自殺ではないでしょうか。皆さんは、二〇一

九年にいじめを理由に自殺した子どもは何人いると思いますか。実は、一八八人です。自殺者二十万人の内一八八人と聞くと、少なく感じる人もいるでしょうが、それでも平均で二日に一人はいじめを理由に子どもが亡くなっているのです。

今から私が皆さんに伝えたいのは、いじめで自分の周りにいる人が苦しまないようにする方法の提案です。

「いじめをやめよう」と誰かが言えばいじめがなくなるかと言うと、そうではありません。人の行動を変えることは、とても難しいのです。ですから、自分自身の行動を変えていくことが大切だと思うのです。

まずは、自分自身が人を傷つける言葉を言ったり、行動をとったりしないということです。「言葉は便利だが使い方を間違えると凶器になる」という言葉があります。言葉一つで人は幸せにもなれますが、反対に人を死に追いやることもあります。例えば一日のうちに十回「ありがとう。」と言われたとしましょう。言われたその時は嬉しいのですが、その日のうちに忘れてしまう人も多いでしょう。

しかし、一日のうちに一度でも悪口を言われると、その悪口をなかなか忘れられず、やっと忘れたと思っても何かをきっかけにまた思い出してしまふ。こういった経験をしたことはありませんか。なかには、ほんの一言で生涯忘れられない傷を負うこともあります。言った本人は何気ない一言のつもりでも、相手からするとすごく傷つく一言の可能性もあります。ですから、なおさら言葉には気を付けましょう。

次に、友達の悩みを聞いてあげる、相談相手になることが大切です。いじめで一番傷つくのは心です。ですから、相手の言うことに共感し、解決策と一緒に考えることで傷ついた相手の心を癒してあげると、相手の気持ちも楽になると思います。

普段から皆さんが思いやり、助け合いの心を持って生活していくことで、いつか日本でいじめによる自殺をする子どもがいなくなるかもしれません。大切な命を自ら絶つ選択をするのではなく、自身や自分の大切な人の命を守る選択を皆ができる世の中であって欲しいと、私は願っています。

「情報を整理する」

滝野中学校 二年

西角^{にしかく}心香^{このか}

保育園に子供をあずけようとする
と、感染のリスクがあるため断ら
れたということを知りました。私
は最初、なぜあずけてはいけない
のかと思いました。医療従事者の
方々は患者を救うために闘ってい
るのに、どうして協力をしないの
かと疑問に感じました。でも、保
育園の方も他の子どもに感染させ
ないよう闘っているのだとも思っ
ました。

今、新型コロナウイルスが流行
しています。そして、みんなが感
染してしまうのではないかという
大きな不安を感じながら生活して
います。そんな中、医療従事者の
方々をはじめ私たちの生活を守る
ために働いてくださっている方々
がいます。それに関わらず、そ
の方々に対する心ない言葉をかけ
る行動があるということを聞きま
した。様々なことが制限され、先
の見えない状況でストレスが溜ま
りますが、そのストレスをぶつけ
るところを間違っではいけないと
思います。

あるニュースで、医療従事者が

また、別のニュースでは、政府
からの営業時間短縮要請を守って
営業している店にも関わらず、周
辺の方から心ない言葉が書かれた
貼り紙を貼られたということが報
じられていました。店の方たちも
生活していくために営業せざるを
得ないのだと思うし、周辺の方も
今回の得体のしれないウイルスに
怯えて、いっぱい、いっぱいなの
だとも思います。自分を守るため
とは言え、このように人と人が
責め合うことはとても残念なこと
だと強く感じました。

報に右往左往し、訳も分からず怯
えているのかもしれない。それ
によっていわれなき中傷や攻撃が
うまれ、誰かが傷つくことにつな
がってしまっているのだと思いま
す。それを防ぐためには、むやみ
やたらとウイルスを怖がるのでは
なく、根拠に基づいた正しい情報
を手に入れることが重要です。正
しい情報をもとに自ら考え、適切
な行動を選択すれば、必要以上に
ウイルスに怯えることもありませ
ん。例えば、いつもより体温が高
ければ学校や仕事を休む、自分が
感染しないように、他人にうつさ
ないようにマスクを着用する、マ
スクや顔を触らないように意識す
るなど、感染防止のためにできる
ことはたくさんあります。一人一
人が意識を変えれば、自分だけ
なく、誰かの大切な人を守ること
にもつながります。そしてそれが
医療従事者の方々をはじめ私たち
の生活を守るために働いている
方々への何よりの思いやりの行動
になると思います。

緊急事態宣言による生活の変化
で、心がささくれて、普段ならな

なんてことないことが重く心にのし
かかってしまっています。だからこそ
私は、正しい情報のもと、思いや
りの気持ちをもって行動したいで
す。

これは、このような緊急事態時
だけでなく、普段から大切なこと
だと思っています。ネット社会は本
当なのかどうか分からない情報で溢
れています。膨大な情報の中から
正しい情報を整理・選択し、しっ
かりと自分で考えて行動すれば、
誤った情報で誰かを傷つけてしま
うことも減るでしょう。いかなる
状況下でも、私たちにとって大切
なことは、自分や大切な人たちを
守ることです。こんな時だからこ
そ、互いを思いやる心が必要です。
私も大切な人を守るために、常に
思いやりの心を持ち、しっかりと
自分で考えて行動していきたいで
す。



「今日という日を 生きる」

東条中学校 二年

藤原 ふじわら ゆず



「人はどうして生きるの」「誰のために生きるの」そう考えたことはあるだろうか。「命」の大切さや重さとは、不意に気づけば、一人では分からなくなってしまうものだ。

私は小学三年生の頃、「脳動静脈奇形（AVM）」という若年者の脳卒中の原因となる病気で倒れた。それをきっかけに物事をマイナス思考でとらえ人の目をよく気にするようになり、命の大切さ、生きる意味すら分からなくなってしまうた。

しかしある日、一人の少女をテレビで目にしたときから、私の考えは少しずつ変わっていった。彼女の名は、ニッキー・リリー

という。彼女と私には、共通点がある。それは、「脳動静脈奇形（AVM）」の患者である」ということだ。彼女は、私より症状がひどく、何より顔が異常に大きく腫れているのだ。しかし、彼女はとても強い人だ、と私には思えた。一体、彼女のどこに強い人だと私は思わされたのか。それは彼女自身が自分の病気と向き合っている、というところだ。病気で顔が腫れ、みんなと思いつきり外で遊ぶことも許されない。もちろん、彼女もそのことに私と同じくショックを受けただろう。「自分はみんなと違う」と。しかし、彼女は「そんな自分を知ってもらおう。そして、自分のように苦しい思いをしている人を少しでも助けたい」と、動画共有サイト「ユーチューブ」での動画配信を始めた。自分の人生はまだ終わったわけではないと言いつけるかのうちに、自分の外見にとらわれず、堂々と生きようとしていた。私は彼女を知ってから、命の大切さや生きる意味を知ることができた。

私は今回、自分の実体験を振り返りながら、この人権作文を書いている。病気で自分の間帽子をかぶらなければいけなかったとき、ふざけて帽子を取られたことがあ

る。相手にとってはすごく軽いことだったのかもしれないが、自分にとっては深く傷つく出来事だった。また、手術費用として大金が自分に使われていると知ったとき、自分はどうして生きているのか、そこまでして生きる意味とは何なのかと、何回も何回も考えさせられた。もちろん今もだ。たまに分からなくなることがある。

でも、そんなときいつも近くに

いる人が、私を必要としているのだと言ってくれるのだ。それは日々の何気ない会話の中にあたりする。例えば、机を拭いたり、手伝いをしたりしたとき「ありがとう。助かるわ。」

と言ってくれたり。人を笑わせたり、近くにいたりするだけで、「いっしょにいると楽しい。」

とも言ってくれたりする。私はニッキーのいつも笑顔でありのままの自分を表現する生き方と、近い人の存在によって、この世界で生きていきたいと強く感じるようになった。きっとそれは、自分自身が病気に向き合うことができて

いるということではないだろうか。今まで自分のことをひたすらマイナス思考で考え、生きる意味や価値がわからず、人の目を気にしていた。いつの間にか、この先長く続いていくだろう自分の人生までも怖がり、自立できなかった弱い自分が、少しずつ強くなってきた気がする。しかし、一度つくられた深い傷や、分厚い壁を今すぐにつぶせるかといったら難しい。でも、たしかに少しずつだが、私の心の傷は小さくなり、壁にも穴が開き光を取り入れようとしている。自分の人生を自分らしく生きようと前に進むうとしている。そしてだんだん自分自身と向き合っているほど強くなっていくと思う。

今回の人権作文で、自分が少しずつ一人の人間として生きようとしていることに気がつくことができた。私は今完全に病気が回復したわけではない。しかし、気持ち

が下へ下へと下がってばかりいた私にも、生きる意味を教えてください。私にも、生きる意味を教えてください。それは、自分と同じ思いをしながらもそれをプラスに考えてみんなを助けようとする人や、家族、友達、近所の人たちだ。

人は弱い。例えば、一人では持てない岩があると。でも、三人、四人といれば持ち上がるだろう。人は一人では生きられない。人生はみんなが助け合って生きることだと私は思う。

「重み」

兵庫教育大学附属中学校 二年

ジョセフ リア



みなさんは相模原障害者施設殺傷事件という四年前に起こった事件を覚えているだろうか。元施設職員が施設に入っている障害者を十九名殺害したという事件である。

私は去年、ニュースで流れていたこの事件の特集を老人ホームに勤めている母とともに見ていた。

私は母に、「なんでこんな事、したんやろなあ。」とつぶやくように尋ねると、母は、「さあ、なんでかなあ。犯人は意思の疎通のできない寝たきりの入所者さんが家族や世間から見放されたように見えて不幸に思ったんやろうか。実際に老人ホームでも家族があま

り会いに来てくれず、何年も寝たきりの方もいるし。」と返した。

私はその言葉を聞いて心を揺さぶられた。先ほどの母の言葉のよきな生活に私ならとてもたえられないと思うし、そのような生活を送らねばならない方の苦しみは想像も及ばないが胸がキュッと痛くなる。たった一瞬でたくさんの事を考えさせられる母の言葉には「重み」があった。

老人ホームに勤めている母は、楽しくって心が温まるような話とともに、老人達の悲痛な訴えを私に伝えてくれる。特に後者の話にはひどく心を揺さぶられる。その中で印象に残っているものは、次の二人のおばあさんの話である。

一人目は「京都旅行に行くから」と荷造りをして車に乗せられ、そのまま老人ホームに連れてこられた方の話である。その人はいまだに「京都…京都に行くの。」と言い続けているのだそう。二人目は、「一日だけ言ったのに、もう何日になる!」といつも怒っているおばあさんの話だ。

この二人はどちらも老人ホームに自分の意志で入っておらず、家

族にだまされるようにして入れられているのだ。長く住んで思い出がつまった家から引き離された彼女達の心情はいったいどんなだろう。きつと悲しく寂しいはずだ。今、その人達がどうなっているかは分からないが、最悪の場合、自分の最期の場所すら選べなかったことになる。

続いて、老人ホームに勤めている看護師Aさんのブログの話だ。特に心に残っているのは、「死にたいと言える方はまだマシ。死にたいとすら伝えられない方もいる。」という内容と、「死にたいと言わせない介護を考えていくことは大切だが、できると思ってはいけない。」という内容だ。自分の思いが伝えられずに生きている方々の苦しみ、それをどうにかしてあげられない方々の苦しみ、その両方がAさんのブログから感じられる。その「重み」を背負い、向き合っているAさんは本当にすごい人だと思う。誰もが目を背けたくなるようなことをずっと見つめ続けている。

以上の二つの話を見聞きして私

自分一人で背負うことの難しさだ。いずれ私の祖父母、両親、そして自分までもが命の最後を迎えることになる。その時に、一人で命を抱えるのは難しい。だから、お世話をする人が必要であり、そのおかげで生きのびられる。だがそのお世話をする人にはお世話をされる人の命の重みがのしかかる。どちらの立場も苦しい。

私達は危うい命のバトンをつないでいっているのだ。それぞれの立場のバランスがいずれかに偏ると、連鎖して全てが崩れてしまう危うさをもつ。そんなバトンがいずれ自分にもまわってくる。その時にたくされた命の重みにどう接し、どう向き合っていくのか、また、自分の命の重みを誰にたくすのか、選択しなければならぬ。

でも、この事は今の私にはあまりに難しい。いずれは誰もが背負わなければならないその「重み」。私はその時までにはたくさんのことを見て、聞いて、準備していきたいと思う。



小中学校人権教育講演会

子どもの頃から、人を思いやる心の大切さ、また、夢に向かって努力する大切さ等をテーマにしたお話を聞くことで、将来に希望を持って過ごしたり、自分や周りの人を大切に考えたりできる大人へ成長することを願って平成25年度から実施しています。

感想…お話を聞いて学んだことは相手幸せにするために努力したら、周りの人も幸せになって、自分にもその幸せが返ってくるということです。お話の中で、お兄さんや友達、妹のために協力してお願いで、ずっとけん力をしていた同級生とも、とても仲良くなっていたから、心が通じるってすごいなと思いました。今の自分は人をいじめたりしていないけど、人を幸せにするとかはできていない気がします。だからこれからは、差別など、人を傷つけることはせずに、みんなが幸せになることをできるように、がんばりたいです。

感想…お話を聞いて学んだことは相手幸せにするために努力したら、周りの人も幸せになって、自分にもその幸せが返ってくるということです。お話の中で、お兄さんや友達、妹のために協力してお願いで、ずっとけん力をしていた同級生とも、とても仲良くなっていたから、心が通じるってすごいなと思いました。今の自分は人をいじめたりしていないけど、人を幸せにするとかはできていない気がします。だからこれからは、差別など、人を傷つけることはせずに、みんなが幸せになることをできるように、がんばりたいです。

会場…福田小学校多目的室
対象…社・福田・米田・三草・鴨川小学校5・6年生
演題…「二人芝居、もも子」を通して子ども達へ命の尊さを伝えます」
小学校教諭 大学講師を経て、現在は九州を拠点にして、精力的に講演活動や一人芝居、私塾の経営をされながら、子どもや保護者の支援をされています。



講師：福永宅司さん
(有限会社子どもの学び館代表取締役)

感想…伊藤真波さんは、利き手の右腕を失ったのに、ずっと笑顔でした。もし、ぼくが真波さんと同じ立場だったら「友達と元気に遊びたい」「今までできていたことをしたい」など思っています。笑顔でいることが難しいです。それなのに、真波さんは、元気で笑顔で、すごいと思いました。右腕を失った後でも、夢をあきらめずに、追っていたこともすごいです。バイオリンを演奏されたときも、上手い下手じゃない、一生懸命頑張ればそれで良いと言ったことを学びました。ぼくも、どのようなことがあっても、必ず夢をあきらめないようになれたらいいな、と思いました。

感想…伊藤真波さんは、利き手の右腕を失ったのに、ずっと笑顔でした。もし、ぼくが真波さんと同じ立場だったら「友達と元気に遊びたい」「今までできていたことをしたい」など思っています。笑顔でいることが難しいです。それなのに、真波さんは、元気で笑顔で、すごいと思いました。右腕を失った後でも、夢をあきらめずに、追っていたこともすごいです。バイオリンを演奏されたときも、上手い下手じゃない、一生懸命頑張ればそれで良いと言ったことを学びました。ぼくも、どのようなことがあっても、必ず夢をあきらめないようになれたらいいな、と思いました。

会場…滝野南小学校体育館
対象…滝野東・滝野南小学校5・6年生
演題…「あきらめない心」
20歳のとき、事故で利き腕を失う。義手を神戸で作った縁で、神戸市内の病院で日本初の義手の看護師となり、リハビリの一端で始めた水泳でパラリンピック日本代表に選ばれました。



講師：伊藤真波さん
(元パラリンピック水泳日本代表・義手の看護師)

感想…私はバスケットボールが好きで、車いすバスケットもしたことがあるので、今日はとても楽しみにしていました。面白い写真を準備してくれて、とても楽しかったです。私が番に残っていることは跳び箱の話です。慎志さんは跳び箱が嫌いだと話していたけど、あきらめずに何度も挑戦しているのがすごいなと思いました。私も、苦手なことやできないことがあっても、慎志さんみたいにあきらめず、何度も挑戦していきたいと思いました。

感想…私はバスケットボールが好きで、車いすバスケットもしたことがあるので、今日はとても楽しみにしていました。面白い写真を準備してくれて、とても楽しかったです。私が番に残っていることは跳び箱の話です。慎志さんは跳び箱が嫌いだと話していたけど、あきらめずに何度も挑戦しているのがすごいなと思いました。私も、苦手なことやできないことがあっても、慎志さんみたいにあきらめず、何度も挑戦していきたいと思いました。

会場…東条東小学校体育館
対象…東条東・東条西小学校5・6年生、東条中学校全校生徒
演題…「出会った人と友達になる」
高校3年生のとき、交通事故で脊髄を損傷。以後、車いすでの生活となるが知人のすすめで車いすバスケットボールに出会い、シドニーパラリンピックでは、男子車いすバスケットボール日本代表キャプテンをつとめた。



講師：根本慎志さん
(元パラリンピックバスケットボール日本代表主将)

感想…赤星さんの話を聞いて、僕の中で何か響くものがありました。僕に障害のある人や高齢者の方々に対して、僕も支援できる活動ができたらいいなと思いました。赤星さんは「70人いたら70通りの指導の方法がある」とおっしゃっていました。その通りだと思いました。その人、その人で個性があり、それぞれ違うので、その人に合った教え方があるんだなと思いました。僕たち3年生は受験があるのに、赤星さんのように頑張っている強さを感じたいと思います。

感想…赤星さんの話を聞いて、僕の中で何か響くものがありました。僕に障害のある人や高齢者の方々に対して、僕も支援できる活動ができたらいいなと思いました。赤星さんは「70人いたら70通りの指導の方法がある」とおっしゃっていました。その通りだと思いました。その人、その人で個性があり、それぞれ違うので、その人に合った教え方があるんだなと思いました。僕たち3年生は受験があるのに、赤星さんのように頑張っている強さを感じたいと思います。

会場…社中学校体育館
対象…社中学校全校生徒
演題…「逆風を切って走れ」
元阪神タイガース選手で、2001年より5年連続で盗塁王に輝き、盗塁した数の車いすを全国の病院や施設に寄贈する社会貢献活動を続けてきた。



講師：赤星憲広さん
(元プロ野球選手)

感想…僕は、「自分に起こるアクシデントは、全て自分が階段を上るためにある」という言葉がとても印象に残りました。まさに「角度を変えて見る」ということではないのかなと思いました。そのために昨日の自分を越える、今日の自分を作っていくべきです。今日はこんな所がダメだった、じゃあ、明日はここをより良くするために頑張ろうと思うことが最も大切だと思っています。今日は、自分を一から見直せる良い機会になりました。ありがとうございました。

感想…僕は、「自分に起こるアクシデントは、全て自分が階段を上るためにある」という言葉がとても印象に残りました。まさに「角度を変えて見る」ということではないのかなと思いました。そのために昨日の自分を越える、今日の自分を作っていくべきです。今日はこんな所がダメだった、じゃあ、明日はここをより良くするために頑張ろうと思うことが最も大切だと思っています。今日は、自分を一から見直せる良い機会になりました。ありがとうございました。

会場…滝野中学校体育館
対象…滝野中学校全校生徒
演題…「何事も情熱的に取り組む」
兵庫県立社高校からドラフト2位で近鉄バファローズに入団。引退後は、関係球団のコーチ、監督代行を務め、2013年からオリックスバファローズの監督に就任し、翌年にチームをAクラスへ導きました。



講師：森脇浩司さん
(元オリックスバファローズ監督)

だれもが互いを認め合い みんなの笑顔あふれる 人権尊重のまちに

加東市人権・同和教育研究協議会

住民学習推進部会

活動の総括

本年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、三世代ふれあいの交流学習を取り止めた地区が多くありましたが、人権学習は六割を超える地区で開催されました。

そのうち、これまでと同様に集合型研修としてDVD視聴や講演会を実施した地区が約六割、資料配布による家庭研修として実施した地区が約四割でした。

DVD視聴や講演会におけるテーマは、「外国人の人権」（啓発DVD「サラーマット」）を取り上げた地区が多かったです。外国人が転入してきた地区では、「このDVDを視聴したおかげで対応が優くなりました」

との声も聞かれました。その他、「コロナ差別」をはじめ、「高齢者」、「子ども」、「部落問題」などをテーマに、地区ごとに主体的に学習を展開されました。



本年度は「高齢者」「部落問題」「障害のある人」が多く取り上げられていました。また、「コロナ差別」を扱った資料を配布した地区もありました。

集合型研修のメリットは、一堂に会することで、課題を共有することができ、意見を交換す

ることができる点です。逆にデメリットは、参加者が固定化していることや若い世代の参加が少ないことです。

一方、家庭研修のメリットは、全戸配布することで、例年以上に多くの人に学習してもらうことができたという点です。地区の人権啓発推進員さんから「人権学習のすそ野を広げるさまざまな方法をとっていくことが重要だと感じました」という意見があつたように、若い世代の参加も見られました。

デメリットは、各家庭で学習したことを全戸に還元しにくい点です。まずアンケートの回収率を上げることが課題として挙げられます。

学習内容

①主なDVD

「サラーマット」（外国人）

「ここから歩き始める」

「いじめと戦おう」（子ども）

「恥ずかしいのはどっちだ」（部落問題）

「ぼくらの誇り」（震災）

「生活の中の人権」（一般）

②講演会等

《主な講師》（順不同）

- ・春川政信さん
- ・大東太郎さん
- ・嶋田亜紀さん
- ・堀井洋一さん
- ・山羽勲さん
- ・土肥貴雄（人権教育推進員）
- ・藤原正幸（人権教育推進員）

③主な配布資料

- ・大分県人権啓発冊子（高齢者、部落問題、障害のある人、精神疾患経験者、外国人、犯罪被害者）
- ・日航機墜落事故から、条例リーフレット（部落問題）
- ・日本赤十字社、神戸新聞、ネット記事（コロナ差別）

学校教育部会



学校教育部会では、「豊かな人権感覚を育む人権・同和教育の推進」を目指して、各所属での人権教育の推進に取り組んでいます。

今年度は、活動の柱である公開授業と公開保育を新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点

から中止しました。また、部会開催も縮小し、書面開催としました。

○第1回学校教育部会

資料送付…令和2年6月19日

資料…今年度の学校教育部会役員選出、活動の方向及び年間活動計画について

○第2回学校教育部会

資料送付…令和3年2月2日

資料…今年度の活動報告及び次年度の活動計画（案）、次年度の学校教育部会役員依頼

今年度は所属学校園での実践研究に取り組みました。部落差別の問題をはじめ人権教育の充実を図るため作成した「加東市人権学習（部落問題学習）カリキュラム」に基づき、教科（社会科）・道徳（HR）等において、

人権の歴史や人権問題等について系統的に学ぶことによって、部落差別をはじめとするあらゆる差別を許さない児童・生徒を今後も育てていきます。

今年度は、コロナウイルス感染症感染防止のため、実施できませんでした。

団体別研修推進部会

広域隣保活動事業

窪田隣保館や各地区の公民館等で、福祉の向上や人権啓発のための各種の事業を総合的に実施しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、昨年度とは違った形・内容での事業実施となりました。

今年度実施事業

◆特設人権相談

7月(中止)・11月・3月

◆隣保館総合相談

毎週水曜日14時～16時

◆隣保館だより

毎月1回発行

◆いきいきゲーム教室

8月に四回実施。同じ絵さがしや絵の違いをさがすゲーム、連想ゲーム、頭の体操(脳トレ)などで身も心も元気になりました。



◆読み聞かせ

地域に学ぶ体験学習推進事業の一環として、加東市中央図書館と連携して、学校で実施しました。

◆ヨガ教室

「身体のゆがみを治す」「自然治癒力を高める」「集中力・感情のコントロールを高める」「肩こり・腰痛の症状を緩和する」「自律神経を整える」といった効果を求めて、2月に体験しました。



◆回想法アフター

NHKアーカイブス(記録保管データ)を利用して昔の若かりし日にタイムスリップしました。一人ひとりの懐かしい記憶に働きかける回想法を体験し、認知症の予防と地域内外の交流が出来ました



◆人権講演会

「人権・同和問題の解決をめざして」

関西外国語大学教授

明石一朗さん



自身の実験や学生の事例をもとに、部落差別解消に向けたお話が聞けました。インターネット・DVD・ケーブルテレビを活用しての聴講でした。

加東市企業人権教育協議会の活動(2)

『受け継ぐ確かな実践、
進めよう明るい職場づくり』



◆本年度の取組(10月～2月)

第3回社員研修会(1月18日)

①講話

「大切な人を助けるために」

加東市役所健康課

浅葉 由起さん

検温・消毒など、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながらの研修となりました。

はじめに、加東市における自殺者数の推移と性別・年齢別自殺者の状況について説明がありました。

そして、実態調査から見えて



②「心身がよみがえる

リラックスヨガ」

ヨガインストラクター

競 梨恵さん

前田 真知子さん

コロナ禍の中、心身の健康維持のため、意欲的に取り組んでいたいただきました。参加者は全員リフレッシュできました。



男女共同参画コーナー

男女共同参画社会をすすめるための取り組みとして、家庭や社会の中の性別役割分担意識を見直したりスキルを身につけたりすることを目指す「男女共同参画セミナー」を開催しました。

忙しいママのための 「時短ビューティー」講座

実施日…令和2年11月19日
講師…河村 暁子さん
佐藤 久美子さん
(資生堂ジャパン株式会社)

コロナ禍の取組として講師(東京)と会場をオンラインでつなぎ実施しました。家事や育児、仕事などで忙しい毎日を送る女性を対象に実施しました。普段の生活や就労の際に役立つ時短メイクの方法や効果的な美容法を学ぶことができました。

【参加者の感想】

- ◆自分にかけた時間が少ないので、その中のスキンケアを知ることができた。
- ◆参考になることが多く、すぐに実践できる内容だった。
- ◆サンプル付きで実践を交えながら受講できた。



シェフに習う 男のクッキング教室

実施日…令和2年12月17日
講師…松本 康晴さん
(元ビストロエマンシェフ
オーナーシェフ)

手軽にそろえることのできる食材で、簡単で本格的な料理作りに挑戦しました。参加者同士で協力し合いながら、楽しく料理を作ることができました。

【参加者の感想】

- ◆料理の方法を学ぶことができ、とても参考になった。
- ◆料理を作ったことがなくても、作りやすい説明だった。
- ◆季節に合わせた料理など、工夫されていて良かった。



「ジェンダー」ってなに？

ジェンダーとは、生物学的な性別に対して、社会的・文化的につくられる性別のことを指します。世の中の男性と女性の役割の違いによって生まれる性別のことです。

ジェンダー平等はよりよい世界を目指す国際目標のひとつです。

世界中の人々が豊かに暮らしていくための世界共通の目標として、2015年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の5番目の目標「ジェンダー平等を実現しよう」と、ジェンダーの問題がとり上げられています。

この目標は、ジェンダー平等を達成して女性や女兒への差別や暴力をなくし、女性が能力を発揮できるような社会の仕組みづくりを行うというものです。



身の回りで、こんなことはありませんか？

- ◆「女のくせに」「男のくせに」と言われ、やりたいことをさせてもらえない。
- ◆男性は仕事、家事や育児は女性がするものだと思われる。
- ◆「女性」という理由で、仕事の役職につけない。 など…

これらは、ジェンダーにとらわれた考え方です。「女だから」「男だから」という理由だけで、社会的なイメージや役割を押しつけられて、やりたいことを制限されてしまうのはおかしいという考えを持つことが、ジェンダーによる偏見や差別をなくすことにつながっていきます。

「女らしさ・男らしさ」という固定概念をなくして、一人ひとりが周りの人にジェンダーを押しつけてしまっていないか考えましょう!!



第14期加東市民人権講座修了者一覧

第14期加東市民人権講座（自宅学習）を2回受講され、修了された皆さんです。さまざまな人権課題について学習していただきました。学んでいただいたことを活かし、地域のリーダーとしてご活躍されることを期待いたします。

（敬称略）（令和3年2月17日現在）

【社一區】	赤井由和	【吉馬】	高瀬小太郎
【社二區】	岩崎秀樹	【やしろ台】	生川初恵
【社三區】	柏木三保子 白杵玉代	【上鴨川】	大畑智英
【社四區】	富田立夫	【平木】	中山喜作 吉田和義
【社五區】	田尻純子 田中義三 増田正子 藤原孝子 倉ヶ市正人	【上滝野】	藤本弘美 田中美紀 澤 真理子
【ひろのが丘】	多方まり	【下滝野】	吉村公章 神田高美 服部京児 長谷川裕准 丸山善久 涌嶋義博 岡田敏明 谷口雪美
【大学山国】	小山英樹	【新町】	尾縣正則 大西誠一 塩寺雄大
【山国】	田中寿一 田中典子 藤本正和 井上徹真	【北野】	長谷川宥現 安田千穂
【松尾】	藤本和也 藤本田鶴子	【曾我】	竹内守男 藤井 淳 竹内清美
【田中】	堀内政弘 山田芳久	【多井田】	笹倉清明 西山雅佳 三木万里子 藤井昌子
【貝原】	中西慶子 吉田美保	【河高】	藤井晃輔 藤井竜彦 徳平恵一 小林圭三 西田竜治
【野村】	竹内淳子 竹内郁子 伊沢明美 藤本恵美	【高岡】	中嶋研二 内橋 規 出口勇介 金山明貢 下野定子
【窪田】	中西吉晴 藤本秀範	【天神】	西田千枝子 高見千里 戸田 裕 新本英也
【上中】	依藤幹男 萩原幸信 森本成生	【持鹿谷】	小原ユージン 佐野泰美
【上中団地】	山本浩嗣 平岡利憲	【古家】	岸本孝司 畑山幸子
【梶原】	藤本周子 岸本達三 宮田富太	【西戸】	金谷紀幸 堀田はるみ
【喜田】	森岡和弘 西 宏太	【少分谷】	今川浩文
【沢部】	真野 修	【貞守】	前田明洋 谷上裕子
【上田】	定松重利 中嶋英雄 大塚さゆり 石井和美	【長井】	溝端 実 安居 毅
【大門】	稲継容彦 楫 明子	【長谷】	藤澤卓堂 豊後栄二
【西古瀬】	友藤良和 岸本由美子	【黒石】	山田貴一
【中古瀬】	井上千鶴子 小林啓子 小林優美	【横谷】	門口由美 井上香里
【東古瀬】	小紫尚文	【森】	西尾浩幸
【屋度】	谷川洋右 服部正光	【南山】	藤原裕美 藤田麻依子
【東実】	山口成美	【岡本】	柴崎謙介 藤本真奈美 藤井幸美 柴崎達也
【廻淵】	藤木佳博	【新定】	石田勝則 平川真也 笹 貴子 大野幸代
【池之内】	藤原孝治	【吉井】	長尾俊男
【上久米】	伊藤一徳 伊藤 均	【小沢】	藤原範明 廣田倫也
【下久米】	三村佳生 栗津利朗 河村和幸 大塩満男	【栄枝】	森 律子
【久米】	厚海智晶 柴崎 旭	【松沢】	藤原 誉
【上三草】	西山靖久 西山正敏	【大畑】	土肥由忠 岸本健吾
【下三草】	藤原和公	【蔵谷】	勝田智晴
【木梨】	白井秀樹	【嬉野東】	島橋佳文 宮田満秀
【藤田】	藤原典子		
【牧野】	長谷川忠昭		



園児らの共同作品

市内の保育園・認定こども園に通う園児たちが、思いやりや助け合いの気持ちをテーマに共同作品を作成しました。



加東みらいこども園
そうぐみ（5歳児）

いっせいのーで！

大縄跳び1回目でひっかかる。どうしよう？
「いっせいのーで」って声合わそう！
ヤッター！跳べた。



加東みらいこども園
うみぐみ（5歳児）

みんなでいっぱい遊びたいな

がんばれ、がんばれ！！
失敗してもいいんだよ。
みんなで10回跳べるように心を合わせよう。



三草こども園
（5歳児）

よいところをみつけにいこう！

みんなの顔が違うように気持ちや
得意な事も違う。友達のよいところを
見つけられるとすてきだね！



米田こども園
（5歳児）

ぼくらはみんな生きている

木も草も花も虫も生きてるよ。
ぼくたちみんな友達なんだ。
みんなで遊ぶと楽しいね。



鴨川保育園
（3・4・5歳児）

えがおいっぱい みんななかよし

鴨川っこスポーツ大会で
応援の時に使ったうちわです。
元気に笑顔で応援しました。



正覚坊こども園
（5歳児）

「地球の仲間」

秋の森であそぶみんなは
たいせつな地球の仲間なんだ！！



東古瀬こども園
（5歳児）

みんな仲良し仲間だよ

青い空に龍のような雲を発見！
大空翔ける龍のように
僕たち私たちも元気いっぱいだよ。



泉こども園
（5歳児）

みんなの笑顔、天まで届け！

みんなで育てたひまわりが大きな花を咲かせたよ。
ひまわりのように
ぐんぐん大きくなあれ！



椿山保育園
(5歳児)

きもちをひとつに

一人ではふくらまないバルーンも
皆の気持ちをひとつにすれば
大きくふくらんだね！



たきの愛児園
(5歳児)

みんないっしょにおおきくならろう

色んなはらぺこあおむしが出来たね。
みんな違ってみんな良い。
一緒に大きくなろうね。



高岡育児園
(5歳児)

なかよし いっしょはうれしい

一人一人違うけれど、一緒に遊んだり
一緒に給食を食べたりすることが
一番楽しくってうれしいね。



加茂こども園
(5歳児)

いま、みんなとここにいるしあわせ

友だち♡虫たちと今、大好きな所で
遊べる・けんかして・話をし
えがおになれる毎日ってしあわせ！



河高こども園
(5歳児)

笑顔の花を咲かせよう

みんなのやさしさやおもいやりが
おともだちやまわりのひとを笑顔にするよ。
笑顔ってすてきだね。



東条こども園
(5歳児)

きっとあしたははれるよね

雨が降らないとかならない虹。
28人が明日という未来に向かって
希望を持ち進む様子を表現しました。



秋津保育園
(5歳児)

みんな たいせつななかま

友だちと一緒にだと楽しいね、嬉しいね。
大きな恐竜も小さな生き物も
みんな大切な仲間だよ。



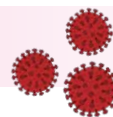
さくら保育園
(5歳児)

みんな ともだち

絵本『おつきさまのともだち』より
ぼくたち仲よしプラネッツ！
歌えばみんな友だちさ。



新型コロナウイルス感染症と人権



「加東市感染症の患者等の人権擁護に関する条例」制定

令和元年12月以降、全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は、日本国内でも感染拡大を続け、人々の健康や生活を脅かしています。

感染症に対する不安や恐怖から、感染者とその家族、医療従事者等に対する偏見や誹謗中傷、不当な取扱いが相次いで問題になっているほか、「自粛警察」などと言われる、個人の外出や事業所の営業を私的に取り締まる過剰で攻撃的な行動も各地で発生しました。このような他者を一方的に排除しようとする行動は、決して許されることではありません。

また、新型コロナウイルス感染症は、感染防止を心がけて生活していても、誰でもかかる可能性があり、社会に感染した人を責める風潮があれば、体調が悪くても受診することを控えたり、検査を受けることを避けたりする人が増え、結果的に感染防止策に支障をきたす恐れも出てきます。

このような状況を踏まえて、感染症を原因とする差別を防ぎ、一人ひとりが安心して暮らすことができる地域社会を実現するために、「加東市感染症の患者等の人権擁護に関する条例」が、2月8日に公布・施行されました。

条例の基本理念

何人も、感染症の患者等に対して、り患していること、り患しているおそれがあること又はり患していたことを理由として、偏見、誹謗中傷、不当な差別又はプライバシーの侵害をしてはならない。

(条文は、市ホームページでご確認いただけます)

だれだって
自分や自分の大切な人が
悪く言われたり
のけ者にされたりするのは
いやだね



発行

加東市
加東市人権・同和教育研究協議会

Human Rights Counseling for Foreigners (外国人のための人権相談)

このQRコードをスマートフォンなどで読み込んで、加東市のホームページにアクセスしてください。

Please scan the QR code with your smartphone to access the KATOCITY website.

対応言語は、英語、ベトナム語、中国語です。

Languages: English, Vietnamese, Chinese



◇人権に関する悩みごとの相談先◇

差別、いじめ、いやがらせなど、人権に関する問題でお困りの場合は、お気軽にご相談ください。相談は無料で、秘密は固く守られます。

☎ 電話で相談 ☎

- みんなの人権110番 ☎0570-003-110
- 子どもの人権110番 ☎0120-007-110
- 女性の人権ホットライン ☎0570-070-810
- 【以上 平日8:30～17:15】
- 外国人のための電話相談
☎0570-090-911 【平日9:00～17:00】
(Human Rights Counseling for Foreigners)
- 公益財団法人 兵庫県人権啓発協会
☎078-242-5355 【平日9:00～17:00】
- 加東市 市民協働部 人権協働課
☎0795-43-0544 【平日8:30～17:15】

👤 面接で相談 👤

- 法務局の常設相談【平日8:30～17:15】
法務局職員もしくは人権擁護委員が相談を受けています。
神戸地方法務局社支局 ☎0795-42-0201
- 人権相談【10:00～11:30】
相談員は人権擁護委員です。
・ 第2金曜日 はびねす滝野
・ 第3金曜日 社福祉センター
・ 第4金曜日 東条公民館 (とどろき荘2階)
- 窪田隣保館人権相談
【毎週水曜日の14:00～16:00】
相談員は人権教育推進員です。